

鋳物で栄えた川口の象徴といえば、工場の屋根から突き出たキュポラ。鋳物の原料となる鉄を溶かす溶解炉として使われます。炉は鉄製で、下部に耐火レンガが張られ、底に溶けた鉄(湯といふ)がたまるようになっています。操業時は炉の上からコークス(燃料)、鉄、少量の石灰岩を交互に入れ、下から風を送って燃料を燃やし、湯を作ります。その温度は1,470度にも達します。湯は職人の手で型に流し込まれ、鋳物ができ上がります。特徴のある形をしたキュポラの上部には集じん装置がついています。昔は、中に三角すいの「陣笠」が中央に吊り下がり、その上に放水ノズルをつけることで、粉じんの排出を抑えていました。最近では溶解に電気炉を使う工場も増えていますが、キュポラの利点は一度に大量の鉄を溶かすことができ、量産に向いていること。街のシンボルは、名実ともに現役です。

今もキュポラのある街



川口市経済部産業振興課

〒332-8601 川口市青木2-1-1
 電話:048(259)9018
 FAX:048(259)2622

工場、路地裏、タワーマンション 近代化に隠れた歴史をたどる

出発地は埼玉高速鉄道(SR)の川口元郷駅。本町ロータリーの巨大な歩道橋を見て芝川を渡ると、ほどなく超高層マンション・エルザタワーの真下へ。正覚寺と随泉寺が並び通りを抜け、芝川にかかる仙元橋のたもとから川辺に降りて水際を散策。水生植物に隠れてトンボやカメも姿を見せます。鋳物芸術ともいえるデザインが際立つ榎木の橋が見えたら、川を離れて再び北上。住宅地と中小工場、ときおり農園もあったり、目まぐるしく景色が変わります。大正～昭和初期のモダンを感じる旧田中家住宅も、ぜひ足を運びたいポイントです。

A-2 芝川公園

川口元郷駅前にある公園。周りを取り囲むようにソメイヨシノが植えられ、桜の季節にはかっこうの花見スポットに。毎年4月には、端午の節句に合わせて「鯉のぼり祭り」が行われます。大きな鯉のぼりが上空を泳ぐ光景は、見ごたえがあります。



B-2 エルザタワー 55

都内から電車に乗って荒川を渡り、ひととき高い建物が見えてきたら、そこは川口。地元の新たなランドマークは、平成10年(1998年)竣工の55階建て、高さ185メートルの超高層住宅です。かつては日本ビストンリングの中核工場があり、戦争中は軍の指定工場として扱われたことも。竣工時はタワーマンションで高さ日本一を誇った先駆的存在で、現在も県内で一番高い建物の座を維持しています。



C-2 正覚寺

天正2年(1574年)の創建と伝えられ、岩付太田氏の家臣で地域一帯の領主だった平柳蔵人の位牌があります。寺は安政の大地震、関東大震災で倒壊しましたが再建され、現在の姿は昭和50年代に修復されたものです。武州七福神のひとつ・布袋尊がまつられています。



C-2 随泉寺

真言宗の寺院で、創立は天文11年(1542年)。本尊は阿彌陀如来です。境内には江戸時代の墓や石碑がたくさん残っています。門前に御詠歌(参拝者が仏をたたえるために歌う、節のついた31文字の歌)の歌碑があり、毎月、御詠歌の会が行われています。



C-3 領家稲荷神社

室町時代に度量衡器(計量器)の製造長を務めたといわれる花ノ井氏が屋敷神としてまつた花ノ井稲荷社が起源とされています。明治40年(1907年)に堤根稲荷社など32社を合祀。毎年9月の祭礼には市無形民俗文化財の「領家の囃子と神楽」が上演されます。



B-3 実相寺

創建は約650年前。鷹狩中に急病となった3代将軍・家光を当時の住持が祈祷で治したとの逸話も残ります。大奥の侍女たちの髪で造られた植髪鬼子母神をおまつりしています。文明3年(1471年)の庚申待板碑は日本最古のものといわれ、市指定文化財です。



B-2 元郷氷川神社

創建は室町時代。夜ごと戦の夢にうなされていた平柳蔵人が、大宮氷川神社より勧請したと伝えられています。もとは四郎の宮とよばれ、荒川のそばにありましたが、水難を避けるため、元和8年(1622年)に今の場所に遷りました。安産、子育ての神様として広く信仰を集めています。



A-2 旧田中家住宅

味噌製造や材木商で財をなした田中徳兵衛が大正12年(1923年)に建てた住宅。レンガ造りの洋館と和館などがあり、国の登録有形文化財です。9:30~16:30(入館16:00まで)、月曜(祝日の場合は、その直後の平日)・年末年始、入場料一般200円、小・中学生50円



工場・住宅密集地に残る歴史の息吹
 元郷・領家コース



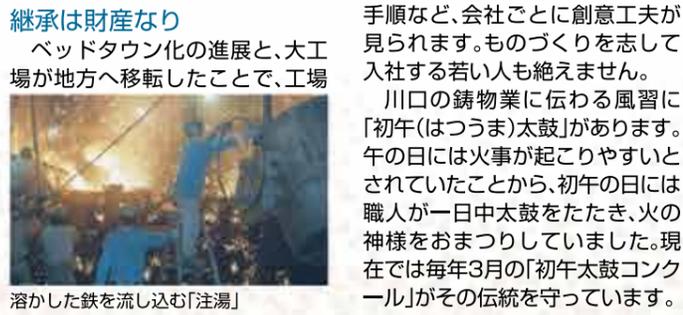
川口鋳物いまむかし

発展のあしあと
 川口と鋳物業は密接な関係があります。鋳物とは、溶かした金属を鋳型に流し込んで造る製品のこと。川口鋳物の起源は諸説ありますが、遅くとも江戸初期には鋳物業者が存在したといわれています。鋳物づくりに必要な砂や粘土が荒川から採れたことや、荒川の舟運で原料や製品が輸送できたこと、大消費地・江戸に近かったことなどが発展の理由とされています。明治以降は日用品から大型鋳物に製造品目が移り、明治10年(1877年)に、ここ川口で造られ

た学習院旧正門(現在の学習院女子大学正門)は、国の重要文化財に指定されています。明治30年代半ばには鋳物業の近代化に成功。燃料は木炭からコークスに代わり、送風に蒸気機関が使われ、量産は品質向上にもつながりました。太平洋戦争後は、空襲の被害を受けながら、鍋釜などの日用品造りから再開。昭和33年(1958年)に造られた国立競技場の聖火台は川口鋳物の代表作といわれ、昭和39年(1964年)の東京オリンピックでも使われました。中小規模の工場が多い川口鋳物

は、多品種少量生産で客先のさまざまな要望に応えています。現在、生産量が多いのは、工作機械の土台や、上下水道に使われる鑄鉄管など。縁の下の力持ちとして社会を支えています。

継承は財産なり
 ベッドタウン化の進展と、大工場が地方へ移転したことで、工場



工場・住宅密集地に残る歴史の息吹

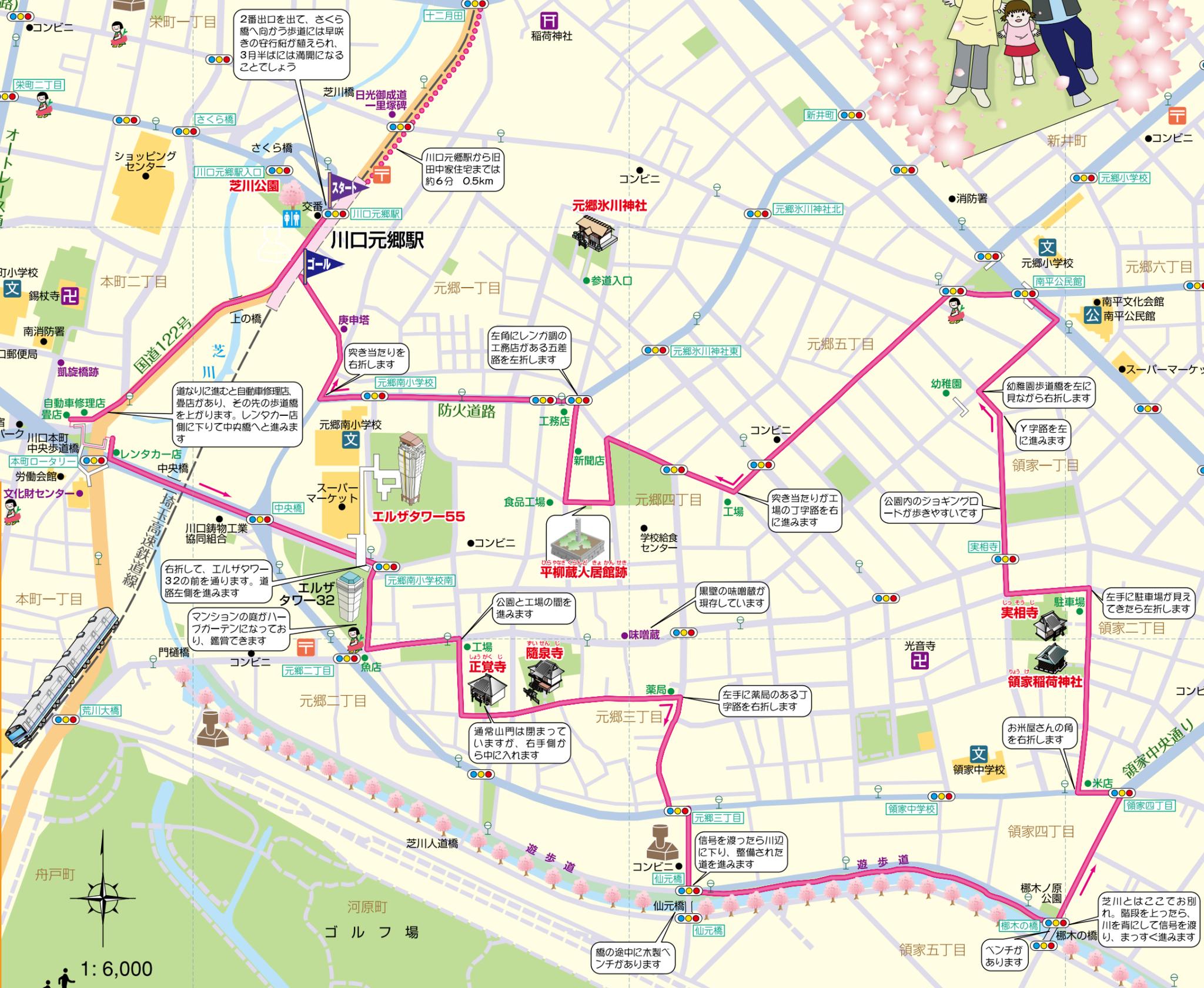
No.3 元郷・領家コース



芝川を歩き、住宅地を抜けて工場密集地帯へ。変化に富んだコースです

SR川口元郷駅	スタート
11分	0.9km
エルザタワー	
19分	1.6km
榎木の橋	
14分	1.1km
南平公民館	
11分	0.9km
平柳蔵人居館跡	
10分	0.8km
SR川口元郷駅	ゴール

所要 65分 全長5.3km
歩く時間は個人差がありますので、あくまで目安です



凡例

観光ルート	観光ルート(オプション)	河川
キュボラがある工場	商店街	トイレ
郵便局	神社	寺院
学校	公民館	バス停
サクラの名所	公園・緑地等	

